

## CS04-9 実験室内でのオオイタサンショウウオの繁殖方法の確立を目指して

○鈴木 美有紀<sup>1</sup>, 三宅 舞<sup>1</sup>

<sup>1</sup>清心女子高等学校

### 「目的」

オオイタサンショウウオは、環境省 2000 年レッドデータブックに「絶滅危惧Ⅱ類 (VU)」に取り上げられている。その分布は、ごく限られた地域に限られており、各地で生息環境の破壊が起こり、激滅しているのが現状である。その保護に役立つ知見を得るために、飼育下での繁殖方法の確立を目指している。本研究では、オオイタサンショウウオの繁殖のために最も基本的な技術として必要とされる人工受精の方法の確立を試みた。

### 「方法」

オオイタサンショウウオは通常 3 年で性成熟し、繁殖が可能になる。孵化後から飼育して 3 年以上経過した個体を用い、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (ゴナトロピン) 注射で刺激し、①人為的にメスから採取した卵嚢に精子を塗る方法と②水槽内に雌雄を入れ、産卵誘発させる方法で受精させた。

### 「結果」

①では最大で 89% の正常発生率が得られた。野外で採取した卵の 91% に近い値を得られたので、人工受精でも野外と同程度の正常発生が可能であると分かった。また採卵してから最高 35 時間は受精可能であることを確認している。②については雌雄の配偶行動が確認され、水槽内でも受精卵を得ることができた。